ツネログ

#06 2025年2月号

皆さん、こんにちは。

1月18日、19日に熊本で開催された第14回フットボールカンファレンスに出席しました。今回は「育成年代におけるタレントの発掘、個別育成の重要性」がテーマとなり、私自身にとっても大変貴重な学びの場となりました。

国際試合を戦い抜くにあたって大切なのは愛国心（patriotism）だというFIFA指導者養成ダイレクターであるクロアチア出身のブラニミ・ウジェヴィッチさんの言葉は心に重く響きました。

クロアチアは約385万人と人口がそう多くはない国ですが、ご存知の通り2018年のFIFAワールドカップロシアで準優勝しています。4年後のカタールではラウンド16で日本にPK戦で勝利し、準決勝で敗れながらもモロッコに勝利して3位となりました。母国のため、母国を愛する人々を幸せにするため――。そのような考えを持ってプレーしている選手、チームがやはり強いという話でしたが、自分の日本代表時代を振り返っても確かにそのような想いを持っていました。ワールドカップでさらなる躍進を遂げていくための一つのヒントだと思います。

カンファレンスでもう一つ興味深かったのは、育成年代の個々の評価においてはパフォーマンスよりもポテンシャルに重きを置くべきではないかという強いメッセージでした。ビジャレアルの事例が紹介され、当初U-15でも大会トロフィーの獲得を優先していたことに「このままでいいのか」とクラブ内で議論になったようです。目の前のパフォーマンスより10年後に選手がどうなっているかにフォーカスするという方針に切り替え、2024年度のバロンドールを受賞したロドリ選手（マンチェスター・シティ）のようなスターが出てきています。

ロドリ選手に対する当時の評価としては、才能があるのは皆分かっていても遅刻が少なくないなどオフザピッチに課題を抱えていたとのこと。彼が将来、成功を収めるために周りも協力しながら改善していき、長い目で育てていったことで今のロドリ選手があるという話でした。指導者が1年ほどのスパンだけではなく、一定期間、選手の成長にもじっくりと寄り添っていくことが大切なのだとあらためて感じました。

日本の育成に目を移すと、整備されたシステムと指導者の皆さんの尽力もあってとてもうまくいっていると思います。地域のクラブに育てられてJリーグを経由せずに高校から欧州のクラブに渡る選手も増えてきている昨今、人間的な成熟を早めていくことがより求められてきます。スキルを高めていくことと同様に、オフザピッチにフォーカスしていくことも大切になってきます。ティーンエイジで海外に行くことになっても、すぐに順応していくためには人間性の成熟が必要であることは言うまでもありません。一方で地域の指導者の皆さんには、グローバルな視点を持って選手を指導していくことがさらに求められる時代になります。日本サッカー協会（JFA）としてもそのための環境整備をしっかりとやっていかなければなりません。育成力を高めていくことが日本サッカーの未来につながっていくはずです。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長　宮本恒靖

理事会トピックス

２０２５年度第１回理事会が１月23日（木）、JFAハウスで開催されました。主なトピックスをお伝えします。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

決議事項

女子委員会 委員選任

女子委員会の委員として、JFAユース育成ダイレクター（女子担当）の鈴木貴浩氏、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ理事の海堀あゆみさん、ワシントン・スピリット（アメリカ）でアシスタントコーチ兼プレーヤーディベロップメントコーチを務める今泉守正氏が選任されました。

報告事項

2025年ナショナルコーチングスタッフ体制

2025年のサッカー（男女）、フットサル（男女）、ビーチサッカーのナショナルコーチングスタッフ体制が報告されました。※下表参照

東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国　日程決定

第77回EAFF理事会が2024年12月17日にホンコン・チャイナで開催され、東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国の日程が2025年7月7日～16日に決まりました。

新たに9人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要とされる「Proライセンス（旧S級コーチライセンス）」について、Proライセンスコーチ養成講習会を受講し、全ての評価項目に合格した7人が、新たに同ライセンスを取得しました。元サッカー日本代表の阿部勇樹氏や永井雄一郎氏ら6人が2024年度受講生として初めて認定されたほか、2022年度に受講していた若井研治氏（広島県国スポ成年監督）が認定され、これで2022年度の受講生は20人全員がProライセンスを取得しました。
また、Associate-Proコーチ養成講習会修了後にコンバージョンコースを受講した福田あやさん（ノジマステラ神奈川相模原アヴェニーレ）と轟奈都子さん（ちふれ ASエルフェン埼玉）も認定され、Proライセンス認定者数は合計で587人になりました。

2025年プロフェッショナルレフェリー契約

主審18人、副審6人と2025年シーズンのプロフェッショナルレフェリー（PR）契約を締結しました。PRとは自身のレベルアップに励みながら全国で講義を行うなど、日本の審判界全体のレベルアップに貢献する役割を担うもので、うち主審5人、副審1人が新規での契約となっています。なお、2024年シーズンまでPRを務めていた西村雄一氏は契約満了となりました。

1級審判員、1級審判インストラクターの勇退者表彰

殿堂・表彰委員会は、2024年をもって勇退した19人のサッカー1級審判員および5人のサッカー1級審判インストラクター、3人のフットサル1級審判インストラクターに対し、表彰を実施しました。前述の西村氏のほか、FIFA女子ワールドカップやオリンピックで副審を担当した手代木直美さん、吉澤久恵さんらが表彰されました。

2025年ナショナルコーチングスタッフ体制 ～各代表チームスタッフ（★新任）

■男子サッカー

チーム／役職	監督	コーチ	GKコーチ	フィジカルコーチ	テクニカル
SAMURAI BLUE	森保 一	名波 浩 齊藤 俊秀 前田 遼一 長谷部 誠	下田 崇	松本 良一	寺門 大輔 若林 太智 中下 征樹 渡邉 秀朗
U-22/21日本代表	大岩 剛	羽田 憲司	佐藤 洋平	矢野 由治	越智 滋之
U-20日本代表	船越 優蔵	菅原 大介 羽田 憲司	高原 寿康	菅野 淳	越智 滋之
U-18日本代表	＊	＊	＊	大塚 慶輔	＊
U-17日本代表	廣山 望	大畑 開	山岸 範宏	佐藤 哲哉	白石 通史
U-16日本代表	小野 信義	＊	井出 大志	小嶺 肇之	引田 真尋
U-15日本代表	平田 礼次	＊	★吉岡 慎輔	＊	＊

＊ナショナルコーチングスタッフ、JFAコーチ、ロールモデルコーチ、各種プロジェクトメンバーより技術委員会にて適宜選任予定

■女子サッカー

チーム／役職	監督	コーチ	コーチ	GKコーチ	フィジカルコーチ
なでしこジャパン	★ニルス・ニールセン	★狩野 倫久	★リア・ブレイニー	西入 俊浩	★岡本 隆吾
U-19日本女子代表	★井尻 明	★鈴木 木乃実	-	小林 忍	★石井 孝典
U-17日本女子代表	白井 貞義	★横道 玲香	-	井嶋 正樹	★石井 孝典
U-16日本女子代表	白井 貞義	★横道 玲香	-	井嶋 正樹	★石井 孝典

■フットサル・ビーチサッカー

チーム／役職	監督	コーチ	GKコーチ	フィジカルコーチ	テクニカル
フットサル日本代表	高橋 健介	谷本 俊介	内山 慶太郎	＊	林 誠晃
U-19/18 フットサル日本代表	高橋 健介	谷本 俊介	内山 慶太郎	＊	林 誠晃
フットサル日本女子代表	須賀 雄大	藤田 安澄	富澤 孝	大森 知	＊
ビーチサッカー日本代表	田畑 輝樹	奥山 正憲	宜野座 寛也	山口 将史	＊

＊各種プロジェクト、テクニカルハウスより技術委員会にて適宜選任予定

Information

なでしこジャパンのコーチングスタッフに 狩野倫久氏、リア・ブレイニー氏、西入俊浩氏、岡本隆吾氏、テクニカルスタッフに小杉光正氏が就任

なでしこジャパンのコーチに、狩野倫久氏とリア・ブレイニー氏が就任することが決定しました。狩野氏は第19回アジア競技大会（2022/杭州）で日本女子代表監督を務め、大会連覇に貢献。2024年にはU-20日本女子代表をワールドカップ準優勝に導きました。ブレイニー氏は元オーストラリア女子代表で、2019年から24年はU-20オーストラリア女子代表の監督を務めていました。
また、GKコーチに西入俊浩氏、フィジカルコーチに岡本隆吾氏、テクニカルスタッフに小杉光正氏がそれぞれ就任することも決まりました。※1/5発表

第103回全国高校サッカー選手権大会決勝がタイ国内にてライブ配信

2025年1月13日に開催される第103回全国高校サッカー選手権大会の決勝がタイのBoonrawd Groupの放送局BGスポーツにてライブ配信されることになりました。海外でのライブ配信は、100年を超える本大会の歴史上、初めてのことです。※1/12発表

日本プロサッカー選手会 会長

吉田麻也さんをマンマーク!

第6回は日本代表として126キャップを誇り、JPFA(日本プロサッカー選手会)の第7代会長を務める吉田麻也さん。2024年シーズンはロサンゼルス・ギャラクシーでキャプテンとしてチームを束ね、リーグ制覇を成し遂げました。

宮本 優勝おめでとう。初めてのタイトルだったとか。記者会見の様子を動画で見たけど、何か解き放たれたような表情をしているなと思ったよ。

吉田 ありがとうございます。アメリカには新たなチャレンジをするという気持ちでやってきて、今まで手にしていないチャンピオンになることもそこには含まれていました。30代半ばで欧州を離れるのは大きな決断でしたが、その価値を証明するには結果を出すしかないと思っていたので優勝できたことは本当に良かったです。

宮本 "麻也会長"と呼ばせていただくけど、JPFAは自分が現役だったころと比べても発言力がすごく大きくなっている。世界でプレーする選手や女子の選手も入ってきて、JFAとしては選手というステークホルダーの声にしっかりと耳を傾け、環境を良くしていくこと、競技力を上げていくことを一緒にやっていかなきゃいけない。そういったところで麻也会長がみんなを束ね、貴重な意見を出してくれているのはありがたい。

吉田 田嶋(幸三)前JFA会長とも選手会としていい関係が築けていましたけど、ツネさんとはグッと年齢が近くなって現役の期間もそんなにギャップがないので、選手の感覚を共有できたり、話しやすさが増している感じはあります。

宮本 「ABC契約」が2026年2月1日より撤廃されることに。これはJPFAが求めてきていたものでもあったよね。

吉田 まず着手できるのはそこかなと就任当初から思っていて、選手たちの同意を取ったうえで交渉を始めました。やるからには全力でコミットしなきゃいけないし、目に見える結果として出せたというのは対外的だけじゃなく、内側の選手たちに向けて"こうやって力を合わせれば自分たちの環境を変えていけるんだ"というメッセージにもなったと思うんです。

宮本 ステータス向上につながる要求に応えていくことが、ひいてはクラブ、Jリーグ、JFAが発展していかなきゃいけないというところにもリンクする。それがより良いサッカー界になっていくということ。

吉田 あるときの労使協議会で、上限をどこにするかみたいな話のときに、ツネさんが『もっと目線を高く、ここって決めてそれに向けてやったほうがいい』とズバッと言ってくれた。あれから一気に動き出しましたよね。僕はあのとき助かったと思いましたよ。

宮本 (選手の)ステータスが上がれば、リテラシーの向上にもつながる。選手たちは何を社会に還元できるのか、それはチームを通してなのか、それとも選手たち自身がっていう考えにもなる。そういった意味でもステータスを上げていく必要があると思って、そう伝えた感じだったかな。

吉田 (2024年8月に)選手のプライバシー保護に関して声明を出しました。実際に日本代表の選手、Jリーグの選手から被害に遭ったという報告を受けていて、抑止しなければという思いからでした。

宮本 JFAとしても対策を立てる必要はあるし、いわれのない誹謗中傷に対しては抗議していく姿勢を打ち出していく。

吉田 選手のステータス向上というところで、いい基準のものは残していい。ただ基準を上げなきゃいけないところ、世界のスタンダードに合わせていかなきゃいけないところは変えていくべきだと考えます。肖像権にしてもそうですよね。あとは僕が選手でいる期間も限られてきているので、僕が離れても(JPFAが)しっかりと自走できるような組織改革もちゃんとやっておかなきゃという思いはあります。

宮本 麻也にはまだまだJPFAのリーダーとして選手たちの声をしっかり吸い上げてもらってJFA、Jリーグ含めていろんなところにぶつけてもらいたい。繰り返しになるけど、一緒になって日本サッカー界をより良くしていきたい。

吉田 やっぱり日本のサッカーが一番先にいろんなものに取り組んだり、変えていったりして日本スポーツ界でリーダーシップを発揮してもらいたいですよ。他の競技団体が"JFAはこうしているから自分たちもこうしよう"とか、そういうケースがどんどんあっていい。競技人口が最も多いサッカーがリーダーシップを担っていくべきだなと僕は思うし、われわれとしてもその一端になればいいな、と。

宮本 麻也には選手としても頑張ってもらいたい。ケガなく、いいプレーをしてもらって2度目のタイトルにつなげてほしいし、今後は指導者のキャリアを歩むのか、それ以外の道に進むのかなどといろいろな選択肢がある中で、これからも大事な日本サッカー界のシンボルとして活動してほしい。帰国早々、JFAまで足を運んでもらって本当にありがとう。

吉田麻也 (よしだ・まや)

1988(昭和63)年8月24日生まれ。長崎県長崎市出身。
名古屋グランパスエイトのユースチームを経て、2007年にプロデビュー。10年にオランダのVVVフェンロに移籍し、12年からはイングランド・プレミアリーグのサウサンプトンで活躍。20年からイタリアのサンプドリア、22年にはドイツのシャルケ04に所属し、23年からはアメリカのロサンゼルス・ギャラクシーでプレー。日本代表の初選出は2010年で、18年から22年はキャプテンを務めた。FIFAワールドカップには3度出場。2022年からJPFA会長。

※次号は2025年3月発行予定／本誌クレジット表記のない写真:©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

JFA DREAM 夢があるから強くなる
発行:公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル 電話:050-2018-1990 HP:https://www.jfa.jp